

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和( 元 )年度
		タブレットPC、デジタルノートの再生機能を使用したカタカナ練習
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	単元・題材名	カタカナの読み書き
	授業の目標	カタカナで書き表す言葉を理解し、筆順を確認しながら、丁寧に正しく書くことができる。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない ( 1 )年 ( 105 )人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD (学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD (注意欠陥/多動性障害) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (構音障害)
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念 (時間、大きさ等)を理解すること <input checked="" type="checkbox"/> 学習 (計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 (発音) 識字・発音に困難を抱え、学習に対する意欲が低下している。構音障害の影響で、自分が発音した通りに間違えて書いてしまう。また既習した文字が定着しにくい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援 ( <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援 ( <input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援 ( <input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 書字が苦手(ひらがな、カタカナ、特に特殊音節)で、構音障害を有する児童に対し、言葉合わせカルタで、正しい単語の表記と音を一致させる。その後、文字のお手本を元に書き順を確認するため、再生機能付きのイラストアプリケーションを用いて、確認し、自分が間違えやすい部分を確認する。デジタル化することで、書く・消すが簡単にできるため、疲れにくい。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	PCタブレットの音声読み上げ アイビスペイントX: イラスト(再生機能付き)アプリケーション スタイラスペン(タッチペン)
授業展開	授業展開・支援の手立て	教科書の新出単語や特殊音節のカタカナ単語カードを作成し、タブレットの音声読み上げに合わせてカードを探し、表記と音の一致をした。間違わずにカードを選択できた段階で、ダミーカードを加え(例: シャツとツヤツ)難易度を上げ実施した。児童は、間違えやすいカードを選んだ時にその違いを探し、自分の方法で見分けた(シは下から書くから「シは下から」)。また、カタカナ書字では、書き順が番号で示されたプリントを画像データにして、再生機能付きのイラストアプリケーションで書いた。文字の大きさ、スタイラスペンの太さを子供の書きやすい状態に調整し、書字の習得練習をした。鉛筆で間違えて書いたときに消しゴムで消す作業に疲れを訴えていたが、戻るボタンや消しゴム機能を使うことで、負担が減り、積極的に取り組むことができた。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	カタカナの単語合わせカルタをタブレットPCの音声読み上げ機能を利用した。一度で聞き取れない時は、自分のペースで聞き直すことができた。児童はカルタ遊びの要素があるため、自分からやりたいと楽しく活動していた。カタカナの書字では、タブレットにスタイラスペンで文字を書く練習をした。ペンの太さや色を自分で調整し、間違えても消したり、前の部分まで戻ったりすることができるので、疲れを訴えにくく、間違ったところを再生して確認することもできた。どちらの活動も「自分のペースでできる」という部分での安心感が見られ、意欲的に取り組んでいた。書字の間違いや整った文字に改善が見られてきた。